

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 一寿会
施設名	幼保連携型認定こども園 名取あけぼのこども園
報告者（役職）	篠田 尚美（指導保育教諭）
住所・連絡先	宮城県名取市増田6丁目1-40
	☎ 022-382-2711 E-mail akebono@ichijukai.jp

### ○タイトル（保育計画）

いつでもダイナミックに体を動かし、気持ちも開放！～心身共に元気な子ども達の為に～

### ○主な助成備品

エアクライミング

## 1. 保育計画策定の目的

近年、園で過ごす子ども達が転びやすい、転んでも手をつけず、顔を怪我する、反射神経が鈍いなど、運動能力が低下しているように思えた為、安全に遊びながらも全身を動かしたり、反射神経をよくしたりする遊具は何かと考えた時に、トランポリンが浮上しました。エアクライミングはトランポリンだけではなく、登ったり、滑ったりすることもできる機能がある為、遊びの中で“楽しく”多様な動きを小さい年齢から取り入れることで、発達に必要な運動機能を身に付けることができるのではないかと考えました。また、障害児にとってもトランポリンでジャンプすることが良いと知り、情緒の安定を図る為、保育教諭とのコミュニケーションを図る為にも良いのではないかと考えたことが目的です。

## 2. 具体的な実施内容

### 【0歳児】

- ・発達に合わせて、初めはマットとして使用する。転んでも安全なエアマットとしてゴロゴロしたり、歩いたり、後半には保育教諭の真似をしてジャンプをして遊ぶことも楽しめるようになる。
- ・山型にしてクライミングの状態にしたものの、手足をかけるところを利用して、つかまり立ちをする。
- ・年度末にはクライミングを登ってみようとする。

### 【1歳児】

- ・エアマットとして長く繋ぎ合わせた上を歩いたり、走ったりして遊ぶ。
- ・トランポリンのようにジャンプをして遊ぶ。
- ・山型にしてクライミングの状態にしたものを登る、滑って降りる。上からジャンプする。

### 【2歳児】

- ・エアマットとして長く繋ぎ合わせた上を歩いたり、走ったりして遊ぶ。
- ・トランポリンのようにジャンプをして遊ぶ。
- ・山型にしてクライミングの状態にしたものを登る、滑って降りる。上からジャンプする。
- ・山型にしてクライミングのシートを付けない状態で、自分の力で上まで登ろうとする。
- ・山の上まで登り、座って眺めを楽しむ。

### 【以上児】

- ・エアマットとして長く繋ぎ合わせた上を走る。
- ・エアマットの上をトランポリンのようにジャンプをして遊ぶ。
- ・山型にしてクライミングの状態にしたものを登る。滑って降りる、または上からジャンプをする。
- ・山型にしてクライミングシートを付けない状態で、自分の力で上まで登る。
- ・山の上まで登り、友達数名と座って眺めを楽しむ。
- ・山型にしてクライミングの状態にしたものを3つ繋ぎ合わせ、コースにして遊ぶ。
- ・エアマットの上で押し相撲をして遊ぶ。
- ・エアマットを利用して、鬼ごっこをする。
- ・エアクライミングと巧技台を組み合わせ、サーキットとして遊ぶ。





### 3. その成果と評価

3セット購入させていただいたことで、ホール一面に3パターンを設置し、ダイナミックに遊んだり、1セットのみを設置し、巧技台等を組み合わせてサーキットとして遊んだりすることもできました。滑り台のように滑れることも年齢が低い子どもほど魅力的でした。傾斜の角度を自由に変えられる為、年齢に合わせて変えて、楽しむことがで

きました。また、軽いので、ホールだけではなく、保育室に持っていき、保育室で遊ぶこともあります。エアクライミングを設置しておくことで、子ども達が「ホールに行きたい」「エアクライミングしたい」と意欲的に発言する姿が見られるようになりました。各クラスで遊ぶ時と異年齢児で遊ぶ時とで、エアクライミングの形を変えたり、巧技台と組み合わせたりと、保育教諭が環境を工夫することで子ども達は毎回楽しんでいきます。

未満児クラスでは、最初、上まで登ると思いのほか高くて怖がるようなこともありましたが、慣れてきたり、友達の姿を見たりして怖がらずに上からジャンプをして楽しめるようにもなりました。年齢が小さければ小さいほど、保育教諭と一緒に楽しんだり、保育教諭が見守っているからこそ、安心して「次はこれをやってみようかな」と挑戦するような成長も見られました。

障害児の子も喜んで保育教諭と一緒にジャンプをして楽しむ姿が見られました。また、痙攣を起したり、保育室が嫌になってしまった時に、ホールやステージに置いてあるエアクライミングのところにきて、少しジャンプをするだけでも落ち着いたり、笑顔になったりして保育室に戻っていくような姿を見みると、少しではありますが情緒の安定も図られているのではないかと感じます。

「上からジャンプをして、着地をする時に手をつく」、「トランポリンのようにジャンプをして、転んだ時に手をつく」ということも、何度も繰り返し遊ぶことで少しではありますが身に付いているように感じます。たくさんの友達と一緒にジャンプをしたり、走ったりする中で、「ぶつかりそうになったら避ける」という危機回避もできるようになってきました。

年齢に合わせて様々な組み合わせで楽しめること、天気によらず、体を動かし発散して遊べることで、子ども達にとってとても良い遊具になりました。また、子育て支援で使用した際も、初めて来た子が目をキラキラさせながら真っ先に遊びに行く姿が見られたり、最初はできなかったけれど、保育教諭や保護者と一緒にすることでできるようになったりなど、子育て支援の場でも活躍することができました。

#### 4. 今後の課題と展望

一年間、エアクライミングを使用してみて、目的であった“反射神経を良くする”“危機回避を学ぶ”を少し身に付けることができましたが、何回も繰り返すこと、経験が多ければ多いほど、より身に付いていくものだと感じました。使うクラスにばらつきがあったりした為、もう少し使用頻度を多くしていきます。また、小さい時からの積み重ねで達成できると考えられることから、今後はより多く遊ぶ機会を設け、楽しみながら運動発達に繋げていきたいと思えます。

保育教諭同士で、「どんな遊びを取り入れると子ども達が楽しく遊びながら健康な体作りができるのか」を常に考えながら環境構成や保育を工夫していくことを大切にするとともに、安全面に配慮しながらダイナミックに遊ぶ楽しさを伝えていくことができるように努めていきたいと思ひます。

以上